

日本比較文化学会

# JACC 比較文化会報

本部事務局：〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 宮城教育大学  
佐藤静研究室

会長室：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

NPO法人国際比較文化研究所内 太田敬雄 [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

会報編集室：〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53 新島学園短期大学内

高山有紀研究室 [y-takaya@mail.neesima.ac.jp](mailto:y-takaya@mail.neesima.ac.jp)

学会HP：<http://www.hikakubunka.jp/>

## 《第29回全国大会》

### 全国大会報告

中国・四国支部長 奥村訓代

去る2007年6月9日（土）、徳島文理大学徳島キャンパスにおいて、全国から記帳者数64名（内部の参加や協力者を入れると約90名）の参加を得てシンポジウム・研究発表並びに懇親会が開催されました。前日の雨には少々驚かされ、心配もしましたが、当日は天気もよく午前中の理事会、午後のシンポジウムや研究発表、総会、またその後の懇親会にも多くの参加者を得て無事終了しました。今回は、シンポジウムに2時間とたっぷり時間がとれ、パネラー同志の意見交換並びに最小限のフロアからの意見も適宜加味され、充実感と内容のあるシンポジウムであったという声もいただきましたことが、関係者の喜びとなりました。

一方、研究発表にも21組（人）と例年に無く多くの発表があり、関係者一同とても嬉しく感じておりました。中でも今回は、韓国から6組もの参加があり（内3組が韓国日本比較文化学会からの発表、3組が日本人で韓国の大学で教えている方々）、と学会名にも相応しい国際的な発表が多く見られるようになりました。

また、最後の懇親会においては、参加者一人一人に徳島文理大学理事長より参加記念品が手渡されるという一幕もあり、理事長はじめ関係各位の日本比較文化学会への厚い思い入れと情熱を感じるシーンも忘れられません。

事務的には、窓口での年会費の取り扱い等についてすったもんだする場面もあったりして、少々手間取るシーンも見られましたが、全体的にはスムーズに進みました。これも担当校の徳島文理大学スタッフや関係者の皆さんのおかげと、この場を借りて、再度お礼申しあげたいと思います。最後に、ご提供いただいた施設等も、新しく快適そのものであったことも記してお礼申し上げたいと思います。

## 総会報告

事務局長 佐藤 静

日本比較文化学会・平成19年度総会は、平成19年6月9日（土）午後5時30分～6時00分に、第29回全国大会の会場となった徳島文理大学徳島キャンパスのメディ

アセンター（徳島県徳島市）で開催されました。総会の議長は太田会長が、進行は佐藤（事務局）が担当しました。以下にその概要を報告します。

2006 年度事業報告及び 2006 年度収支決算報告と会計監査の報告があり、承認されました。2007 年度予算案については『比較文化研究』の「日本語・日本文化」特集号発行等の新規事業等について承認されました（会計報告書参照）。

役員人事等に関連する次の事案について承認されました。山内信幸・奥村訓代の両氏を副会長に加えること。広域アジア支部の廃止が承認され、それにとまなう支部長・選出理事を廃止すること。中国・四国支部役員として藤岡克則氏を副支部長に加えること。山内信幸氏に代わって市川野康氏が新編集委員長に就任すること。東北支部長の菊地弘氏が退会・辞任したことに伴い、佐藤和博氏を支部長代行として今後の東北支部運営について対応すること。

その他、承認・報告された主な事柄は次のとおりです。来年度の第 30 回全国大会は関西支部が担当して京都大学で開催すること。会長奨励賞は 2006・2007 年度分を来年度に選出する。現会長の任期が今年度までなので、来年の総会で会長改選を行うこと。日本放送芸術学会と提携して交流を進めること。『比較文化研究』の発送業務を支部ローテーションとすること、『比較文化研究』編集に伴う欠損金を学会費から補填すること、学生会員や若手研究者の発表・投稿支援のために寄付組織を検討・準備すること、会員増に向けて協力を願うこと。

2006 年度 予算・決算／2007 年度予算			
科 目	2006 年度予算	2006 年度決算	2007 年度予算
<b>I 収入の部</b>			
1、資産運用収入			
利子	10	49	50
2、会費収入			
一般会員	1,740,000	1,826,000	1,830,000
賛助会員	30,000	10,000	10,000
3、事業収入			
『比較文化研究』売り上げ	12,000	0	0
4、寄付収入			
寄付収入	0	0	0
5、その他			
振込み超過金	0	9,285	0
前年度会費追加分		9,860	
口座開設費		10	
当期収入合計 (A)	1,782,010	1,855,204	1,840,050
<b>II 支出の部</b>			
1、大会開催費			
開催校受付謝礼			
28 回大会費	300,000	300,000	300,000
2、支部大会開催費			

支部合同大会補助費	40,000	0	50,000
3、『研究』発行費			
編集補助費	400,000	400,000	500,000
発送費	360,000	88,000	360,000
故中牧記念出版	600,000	0	
4、会報編集費			
編集補助費	0	20,000	20,000
5、管理費			
事務局費	120,000	6,967	100,000
交通費	100,000	100,000	100,000
通信費	20,000	11,910	20,000
事務費	20,000	16,379	20,000
会議費	250,000	248,430	400,000
印刷費	10,000	0	10,000
HP 立ち上げ経費	270,000	265,165	
同 維持費	120,000	98150	50000
会費（学術会議他）	40,000	30,000	30,000
手数料	30,000	42,530	50,000
会費返金	0	0	
その他		10	
6、予備費	100,000	76,500	100,000
当期支出合計（B）	2,780,000	1,704,041	2,110,000
当期収支差額（A）－（B）	-997,990	151,163	-269,950
前期繰越額（C）	2,608,411	2,608,411	2,759,574
次期繰越額（A）－（B）＋（C）	1,610,421	2,759,574	2,489,624

## 《新役員》

### 副会長就任のご挨拶

山内 信幸

このたび、太田敬雄会長のご指名を受け、副会長に就任いたしました関西支部長の山内信幸です。日本比較文化学会とのご縁は、1985年に前任校の新島学園女子短期大学（当時）に着任してすぐに入会させていただいて以来となります。入会当時の学会活動の規模や内容を思い起こすと、学会としての年月の重みと同様に、副会長としての責任の重大さを実感しております。

現事務局は、太田会長の強力なリーダーシップの下、組織体制の刷新や諸規程の整備など、外枠のリニューアルにとどまらず、内実として真に開かれた学会とならんために、さまざまな改革に取り組んでこられました。今後は、国際的な学会としていっそう飛躍・発展するために、会員諸兄姉のより積極的なかかわりが期待されております。

栗原靖先生ならびに奥村訓代先生ともども、太田会長を全面的にバックアップしていく所存ですので、ご協力のほどどうかよろしくお願い申し上げます。

## 副会長に就任して

奥村 訓代

私が日本比較文化学会という学会に目をとめたのは、そのユニークな名称に魅せられたからです。文化の比較というスローガンのもと、年齢と専門の枠を超え、有志が一同に会し、互いに刺激し合い、学びあうことが出来る学会だと知り、いつしか 20 年近くが過ぎようとしています。意見や考え方が異なり、それぞれの研究目的や目標が異なる場合、多かれ少なかれ諸問題が起こるのも当然のことでしょう。しかしそれらを会長始め副会長、いや、なんといってもこの学会をこよなく愛してこられた諸先輩方の人柄に愛着を感じて、現在に至っているというほうが正確かもしれません。世はまさに多文化共生の時代です。この学会は、比較文化という視点から国際理解や多文化共生をテーマとして扱っており、時代にマッチした学会であると確信しています。そして我々は、縁あって日本比較文化学会という「一つのマンションの同居人」になったのだと思います。今後も皆さんと、いろいろな知識や経験の共有が出来ればと願っています。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## 編集委員長就任のご挨拶

市川 郢康

6月に徳島文理大学に於いて開催されました第29回日本比較文化学会全国大会で、副会長に就任された山内先生の後任として機関紙『比較文化研究』の編集委員長の重責を任されることになりました。前任者の山内先生のお力で『比較文化研究』は、学会誌としての威厳を保つべく検討整備され、現在年4回、既に第76号を発行しております。今後も会員諸氏から斬新な論文を投稿戴き、編集委員の査読を通じて質の高い学会誌として世に出せるよう努力邁進する所存ですのでどうぞよろしくお願い致します。

## 《支部報告》

### 東北支部

東北支部大会が7月28日(土)2時から、弘前学院大学4号館第3会議室で開催された。弘前学院大学文学部英語英米文学科 佐藤幸正教授による、長年に渡る W.H.Hudson 研究の副産物とも言うべき内容の講演(司会 元弘前大学教授 栗原 靖先生)の後、弘前学院大学大学院文学研究科修士課程1年 高橋直樹氏による西行についてのフレッシュな研究発表(司会 宮城教育大学教授 佐藤 静先生)が行われた。いずれに関しても、会場は熱心で活発な質問と意見の交換の場となった。

引き続き総会が開かれた。支部人事について検討され、支部長を佐藤和博(事務局兼務)、監査 佐藤幸正と決定した。また支部会費として1000円徴収すること、それから関東支部との合同研究発表会の発表者についても検討され、原案通り了承された。

会員、その他の参加者合わせて10名程度の集まりとなりましたが、徐々にこれから体制を整えて、盛り上げて行きたいところです。

支部長 佐藤和博

## 関東支部

去る3月17日(土)、国立オリンピック記念青少年センターにおいて、第13回の研究発表会(例会)が開催されました。プログラムは以下のとおりです。

(研究発表)

大古田 隆(都立産業技術高等専門学校(非))

「高等学校教科書における発音指導と日本語の干渉について」

水島孝司(東京海洋大学)

「英語トレーニング中心の大学 TOEIC 授業 —その特徴と教育効果—」

三井真紀(九州ルーテル学院大学)

「多文化時代の指導法の研究 —現状と課題—」

(講演)

下田尾 誠氏(中央総合学園)

「イギリスの犬事情観察」

また次回研究発表会(例会)は、東北支部との共催で10月6日(土)に開催される予定です。駿河台大学御茶ノ水校舎にて、14時の開会となります。発表者は決定しつつありますが、関心をお持ちの会員は、関東支部事務局高山([y-takaya@mail.neesima.ac.jp](mailto:y-takaya@mail.neesima.ac.jp))までお問い合わせください。

支部長 野口周一

## 関西支部

関西支部では、本年度も10月、12月、3月の3回の例会を予定しています。このうち、12月の例会は中四国・九州支部との第3回合同例会として、同志社大学今出川キャンパスで12月15日に開催いたします。三支部に所属の方はふるって研究発表にご応募いただきますようお願い申し上げます。研究発表をご希望の方は同志社大学の玉井史絵([ftamai@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ftamai@mail.doshisha.ac.jp))までお問い合わせください。

2007年1月から6月までの例会のご報告は以下の通りです。

2006年度3月例会

日時：3月3日(土) 午後2時15分～5時

場所：京都大学吉田南キャンパス吉田南1号館312講義室

プログラム：

研究発表

1. 中田智子(京都女子大学非常勤講師)

「ツーリスト・D.H. ロレンス：エグザイルとメキシコ表象」

2. 廣田麻子(大阪市立大学専任講師)

「英語圏の作文教育と日本の作文教育の比較」

3. 山内啓子(神戸松蔭女子学院大学専任講師)

「米食の異文化——欧日比較を中心に」

講演

Harry Dauer(京都女子大学講師)

“President and Prime Minister: The Election Process of the U.S. and Japan’s Leaders”

支部長 山内 信幸

## 中国・四国支部

中四国支部の昨日・今日・明日

四国支部では、第29回全国大会の実質的な委員長を担当していただいた徳島文理大学の藤岡先生を今年度より中・四国支部の副支部長にお願いし、香川大学の山下先生と共に支部活動の充実・発展に貢献していただくことになりました。具体的な活動は、山下先生を編集長とする「日本語・日本文化特集号」の発刊予定。また、会員増員目標の設定と活発な活動体制の確立。更に、足元を固めるための各種研究会のこまめな開催を計画しています。今後の主な予定は、次の通りです。

9月29日(土) 日本語教育学会四国地区大会への協力 (四国学院大学)

9月30日(日) 日本語・日本文化特集についての協議(幹部) (香川)

12月8日(土) 編集会議(編集委員長・支部長・副支部長)

2008年2月 特集号発表会を兼ねた研究会予定

また、お知らせにありますように、現在特集号の原稿を募集中です。中牧基金の原稿と共に皆様の積極的な応募、お待ちしております。

(中牧基金関係は、奥村まで。koku@cc.kochi-u.ac.jp)

支部長 奥村 訓代

## 九州支部

第19回日本比較文化学会九州支部大会は3月17日(土)に福岡国際大学において開催されました。会場を快く提供いただいた福岡国際大学学長松浦修平先生にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。総会では会計報告及びその他の報告がありました。研究発表に先立ち下記の二つの講演がありました。

「文学と人生的・人間論的興味」松原新一(久留米大学)

「自然と文化と経済」駄田井正(久留米大学)

研究発表は下記の通りです。

### 第1室

1. バリのアメリカ人—Henry James の The American におけるアメリカ像  
砂川典子(九州大学大学院)
2. 英語コミュニケーションの基本的認識—医療英語の場合—  
古賀元章(福岡教育大学)
3. 大学入試問題のある設問と今後の英語教育  
京極昌三(京都外国語大学名誉教授)
4. ゆとり教育世代第1期生対象の大学英語教育—実践報告—  
與古光宏(九州産業大学非常勤)

### 第2室

1. 死生観と生死観について  
海村惟一(福岡国際大学)
2. 左遷後の白楽天と菅原道真の生活態度  
祝 利(九州大学大学院)
3. 中国と日本における喫茶の成立と展開  
羊 又夫(久留米大学比較文化研究所員)

#### 4. 吉野作造と石橋湛山の国際政治論の比較

藤村一郎（久留米大学非常勤）

支部長 市川郢康

### 《お知らせ》

#### 韓国日本文化学会秋季大会のご案内

韓国日本文化学会副会長 片 茂鎮（韓国・檀国大学）

2000年10月に韓国日本文化学会と日本比較文化学会との間で学術交流協定が結ばれてから早くも7年という年月が経ちました。その間、両学会はお互いの友好の精神に基づいて着実に交流の実績を積んできているものと思われまます。

韓国日本文化学会は年に2回、4月末の春の大会と10月末の秋の大会を開催しており、日本比較文化学会は6月に全国大会を開くということで、両学会会長団の相互の表敬訪問を交えながら会員たちの研究発表を通じての学術交流が積極的に奨められてきました。そういう面で両学会はもっとも模範的にかつ友好的な学術交流を行っていると思っております。

今年の韓国日本文化学会の秋季大会は、10月27日（土）に私の勤めている檀国大学で開かれる予定です。なお今回は、これまでの会員個人レベルでの交流を一段と拡大した形で、日本比較文化学会のご協力を得て共同でシンポジウムを開くことを希望しております。つきましては、この秋の大会に韓国日本文化学会との共同シンポジウムの件を前向きにご検討願いたく存じますと共に、より多くの会員たちのご参加をお待ちしております。

### 会長室より

太田敬雄

日本比較文化学会が弘前の地で「東北比較文化学会」との名称の元、学際的な学会として産声を上げてから間もなく三十年を迎えようとしている。発足当初は三十代半ばだった私も今年は「高齢者」の仲間入りをしてしまった。その現実の前に、学会にとっては三十年という歳月は発足当初のメンバーが、次の世代の時代になったことを意味する歳月であることを改めてしみじみと感じさせられている。

来年は「三十周年を祝わなくては」との声もあるが、私は少々違った見方をしている。今は日本比較文化学会にとって発足から何年目になるのかを問題にするのではなく、今という時がこの学会にとってどのような時期かを見据えたいと思う。

「今」という時を私は、ちょうど蟹や蛇などの動物が成長のために脱皮する時期に似たものとしている。これまで順調な成長を続けてきた学会が古い殻を破り、新しい生命体として大きく成長する時期。それが今の日本比較文化学会が置かれている時ではないだろうか。私が会長に選出されてから、意図的にその脱皮の作業を行ってきた。脱皮直後の学会はまだ殻も柔らかく大きな動きも出来にくい状態にあるが、健康な一回り大きな生命を宿してその殻の固まるのを待っている段階である。これからの時代を担うリーダーシップはしっかりと確定された。次はそのリーダーシップの元で、その体制に活力を与える新しい会員の加入が急務である。脱ぎ去った皮を補う新しい命をしっかりと注ぎ込むこと。それが出

来なければ脱皮の度に学会はやせ細り消えていくしかない。だから古い皮として脱ぎ去られていく者の最後に残された重要な役割は次の脱皮を視野に新しい活力を、新しい会員を大いに勧誘していくことだと思う。

一時期 500 名に近い会員を擁していた日本比較文化学会だが、ここ 10 年ほどの歩みの中で会員数は 400 名程度まで減少してきていた。この傾向が今回の脱皮を困難なものにした何よりも大きな要因だったのではないだろうか。だとすれば、明日の日本比較文化学会のために、新しい研究者の参加を積極的に求めていきたいし、会員になることが若い研究者にとってメリットの大きい学会であり続けられるよう、会員各位の協力をお願いしたい。やがては「比較文化研究」プロパーの研究者が中心となる日が来るかもしれない。しかし今はこの学会は学際的な学会として、会員それぞれが研究する分野の研究を異分野交流的環境の中で「比較」しつつ切磋琢磨する場であり続けなくてはならない。それは丁度リベラル・アーツ教育が目指した人材育成を学会という場における研究者育成の中で実現するようなものであると私は信じている。ここで、広いバックグラウンドを持つ研究者が輩出されるのが将来の研究者の世界を健全なものにすると確信している。

その意味で、会員は「比較文化」という学会の名称にこだわることなく、悪びれずにそれぞれの研究に励み、胸を張ってそれを発表していつてもらいたいし、異なる分野の研究仲間から多くを学ぶ場としてもらいたいと祈っている。「比較文化」はこの学会が研究する分野を指す名称ではなく、この学会の研究者の基本姿勢を示唆する名称だとの認識を新たにしてもらえれば幸いである。

#### 1、会長選挙について

来年の6月の大会で会長の任期が満了になります。つきましては、会長候補を募集中です。自薦、他薦は問いませんので会則をご参照の上適任者のご推薦をお願いします。

#### 2、学会費振込みについて

前回、振込用紙を準備してから時間が経過してお手元にお届けすることになってしまいました。その結果、多くの方にすでに会費をお振込みいただいたにもかかわらず、再度振り込みをお願いしてしまう結果となってしまいました。大変失礼いたしました。そこで真に勝手なお願いですが、気づかずに2007年度分を再度お振込みいただいた方の会費につきましては、ご異論のない限り2008年度分の会費前払いとして受領させていただきたいと存じます。（諸般の事情により前払いされる方もあり、区別がつかないという事情もあります。）

振り込み状況のお問い合わせ、また返金のご希望につきましては会長室の太田までご連絡下さい。ご連絡・お問い合わせは [totatakao@yahoo.co.jp](mailto:totatakao@yahoo.co.jp) までお願いします。

#### 《編集後記》

会報の編集作業の開始が遅れ、執筆していただいた方々には、ご迷惑をおかけしました。ご協力に感謝申し上げます。

(高山記)